

科目名称：	特別支援教育の理解Ⅱ	
担当者名：	鋪村 暢代	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
今までの生活や、実習等を通して気になってきた困り感のある子どもについて、特別支援教育の視点で考える。体験やディスカッションをする中で、気づきを深めたい。また、グループワークやフィードバックを行うことで、支援が必要な子どもに対して、教員同士やその他の機関がチームとして関わる必要性に気付けるようにしたい。		
授業の達成目標・到達目標		
子ども理解を深め、必要に応じた支援を考えようとすることができる。 教員同士やその他の機関がカンファレンスを行うことを、グループワークやフィードバック等を通じて経験し、その必要性を知ることができる。		

幼児教育学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。		

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)			60	40	100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容１》 特別支援学校教諭	《経験年数１》 20年
	《内容２》	《経験年数２》
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
特別支援教育の視点を取り入れた支援の理解	専門知識を活用し、具体的に子どもの困り感への支援を考え、ワークシートを書いている。	具体的な内容で、子どもの困り感への支援を考え、ワークシートを書いている。	具体的な内容には少々かけるが、ワークシートを書いている。	ワークシートを書くことができていない。
グループワークへの取り組み	グループワークに積極的に参加し、フィードバックで得た知識を十分に活かしている。	グループワークに参加し、フィードバックで得た知識を活かしている。	グループワークに参加し、フィードバックで得た知識を活かそうとしている。	グループワークに参加しているが、フィードバックの活用が見られない。
互いに認め合う力の育成	グループワーク等の中で、他者と考えを共有し認め合いながら、積極的に自分の意見を伝えている。	グループワーク等の中で、他者の考えを傾聴しながら、自分の意見を伝えている。	グループワーク等の中で、他者の考えを傾聴しながら、自分の意見を伝えようとしている。	グループワーク等に参加しているが、自分の意見を伝えていない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 困り感のある子どもについて ①(障害の理解) ディスカッション・グループワーク	実習や実生活において出会った困り感のある子どもについて考え、ワークシートにまとめること。	30分
第2回 困り感のある子どもについて②（障害の概念・捉え方） ディスカッション・グループワーク	実習や実生活において出会った言葉の遅れのある子どもについて考え、ワークシートにまとめること。	30分
第3回 困り感のある子どもの支援について①(実態把握) ディスカッション・グループワーク	個別の支援計画について調べ、ワークシートにまとめること。	30分
第4回 困り感のある子どもの支援について②(目標設定と支援) ディスカッション・グループワーク	個別の支援計画について調べ、ワークシートにまとめること。	30分
第5回 困り感のある子どもの支援について③(問題行動) ディスカッション・グループワーク	実習や実生活において出会った問題行動のある子どもについて考え、ワークシートにまとめること。	30分
第6回 スケジュール作成・環境デザインと視覚支援① ディスカッション・グループワーク	スマートフォンやPC等を用いてスケジュールや環境デザインの事例を調べ、具体的な視覚支援を考えること。	30分
第7回 スケジュール作成と環境デザインと視覚支援② 発表	自作の視覚支援について発表の準備を行うこと。	30分
第8回 スケジュール作成と環境デザインと視覚支援③ 発表	自作の視覚支援について発表の準備を行うこと。	30分
第9回 障害の理解と支援について（自閉症・発達障害） ディスカッション・グループワーク	教科書用いて自閉症、発達障害の支援について調べること。	30分
第10回 障害の理解と支援について(肢体不自由・医療的ケア) ディスカッション・グループワーク	教科書用いて肢体不自由、医療的ケアの支援について調べること。	30分
第11回 障害の理解と支援について(視覚障害・聴覚障害) ディスカッション・グループワーク	教科書用いて視覚障害、聴覚障害の支援について調べること。	30分
第12回 障害の理解と支援について(病弱) ディスカッション・グループワーク	教科書用いて病弱の支援について調べること。	30分
第13回 就学支援と保護者対応 ディスカッション・グループワーク	教科書用いて就学支援や保護者対応について調べること。	30分
第14回 思春期・青年期に向けて(さまざまな連携) ディスカッション・グループワーク	教科書用いて障害のある子どもの中学校、高等学校の生活や、連携機関について調べること。	30分
第15回 これからの障害児保育・教育 ディスカッション・グループワーク	教科書用いてインクルーシブ教育について調べること。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 ワークシート60％ グループワーク等の積極的参加や活用40％
課題に対してのフィードバック
提出物はルーブリック等で評価し、返却する。
教科書・参考書
教科書：小林徹 栗山宣夫 『シリーズ 知のゆりかご ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』（株式会社 みらい）（読み込むことで、特別支援教育についての知識・支援方法・エピソード等を知る） プリント配布(授業の流れを知る・書き込むことで知識の定着を図る)